

2022年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
ワークショップ4											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	講義	時間数	60	単位	4
担当教員	高沢敦博			実務経験	有	職種	映像制作業務				
担当教員紹介											
放送業界で製作業務に従事していた マスコミ業界でマネージャー業務に従事していた											
授業概要											
映像製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。											
到達目標											
学生が特に＜実習＞において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することがひとつの目標となる。											
授業方法											
この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。定期試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な授業参加度、受講態度などによって評価する									
履修上の注意											
この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話のある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
必要がある場合は授業内で配布											
回数	授業計画										
第1回	巨匠の映画術⑥ アルフレッド・ヒッチコック監督作品ほかを使い、映画史を遡る										
第2回	巨匠の映画術⑦ フランソワ・トリュフォー監督作品ほかを使い、ヨーロッパ各国の差異を学ぶ										
第3回	巨匠の映画術⑧ イングマール・ベルイマン監督作品ほかを使い、キリスト教とヨーロッパ映画の関連を学ぶ										
第4回	巨匠の映画術⑨ フェデリコ・フェリーニ監督作品ほかを使い、当時の技術、技法を学ぶ										
第5回	巨匠の映画術⑩ 黒澤明、小津安二郎、溝口健二監督らの作品を使い、ヨーロッパに好まれた日本の特性を学ぶ										

2022年度 日本工学院専門学校		
放送芸術科		
ワークショップ 4		
第6回	ドキュメンタリーの軌跡①	アカデミードキュメンタリー賞受賞作品をはじめ、題材と構成、表現を学ぶ①
第7回	ドキュメンタリーの軌跡②	アカデミードキュメンタリー賞受賞作品をはじめ、題材と構成、表現を学ぶ②
第8回	ドキュメンタリーの軌跡③	アカデミードキュメンタリー賞受賞作品をはじめ、題材と構成、表現を学ぶ③
第9回	実写とアニメーション①	「スパイダーマンシリーズ」などを例に、コミック→実写→アニメ→融合を学ぶ
第10回	実写とアニメーション②	ジブリ作品の実写化などを例に、表現の特殊性とミスマッチを研究する
第11回	実写とアニメーション③	「犬が島」などを例にストップモーションなどアニメーションの歴史を学ぶ
第12回	LGBTと映画①	LGBTを筆頭に社会における様々な差別と社会認識と映画表現を研究する①
第13回	LGBTと映画②	LGBTを筆頭に社会における様々な差別と社会認識と映画表現を研究する②
第14回	LGBTと映画③	LGBTを筆頭に社会における様々な差別と社会認識と映画表現を研究する③
第15回	アジアにおける日本	日本映画の現在地とアジアの歩みを学ぶ